

美川佛壇協同組合は今春から、仏壇の修繕ビジネスに本格参入する。長年使った愛着のある仏壇を伝統の技で修理してほしいとの依頼が県内で相次いでいるため、同組合は販売だけでなく修繕も積極的に請け負い、美川仏壇の魅力を広く発信する機会を増やす。若手職人を育成する機会としても活用し、業界振興につなげる。

同組合はこれまで、修繕は手間や費用が掛かるため、美川仏壇のほか、金沢や七尾、京都など一部の伝統工芸品に限定していた。

しかし近年、30年ほど前に大量に出回った県外産の仏壇が修繕時期を迎えていることもあり、「愛着のある仏壇を長く使いたい」と県内各地から修理を

組合が 本格参入

依頼続々

愛着深く

美川仏壇の技で修繕

若手育成の機会に

り、銅の金具を直ちゅう製とするなどの修復を施す。大切に使用は長持ちすることや美川職人の技術力の高さをアピールする。

同組合事務局で北島仏壇店塗師4代目の北

島昭浩さん(46)は、白山市美川新町は、組合全体で修復を請け負うケースは珍しいとしており、「藩政期以来守り続けてきた技を若手に継承する機会として

も位置付けたい」と話している。

県下警察署長会議は、県警本部で開かれ、県警察署長や県警本部の長ら約80人が出席し、罪捜査の留意事項や、交通事故の抑止、テロ対策などについて、県警全体の意志を述べた。

谷本正憲知事、大野沢地検検事正があいさ

している。



仏壇を修理する美川仏壇の職人 白山市美川北町

求める声が増え、これまでほとんどなかった修理の依頼が昨年1年間で10件に上り、今後、県外からの要請も増える。とみて修復に本腰を入れることにした。

計画では、持ち込ま

れた仏壇が合板やスプレー塗装による大量生産品だった場合、合板を強度の高いムク材に取り換えて漆を塗った